

ドラマ「太王四神記」

ドラマ「太王四神記」(全24話)より あらすじ

高句麗の建国から400年。人々は長い間、自分たちが神の国「チュシン」の末裔(まつえい)であると信じ、約束された王を待っていた。

そしてある晩、ついにチュシンの王の誕生を告げる星が夜空に輝いた。

同じ日に王家に生まれた二人の男の子。チュシンの王を守るべく眠りから目覚めた四神たち。四神の神器を手に入れようと企む闇の勢力…。

高句麗の広開土王(好太王)をモデルにした歴史ファンタジー。

図書館の所蔵

『太王四神記』上中下(和佐田道子著 913.6/W)
ドラマの内容をさらに理解できる公式ノベライズ本。



「太王四神記」の世界

ドラマ「太王四神記」は、4世紀から5世紀にかけて朝鮮半島・中国東北地方を席卷した高句麗の広開土王高談徳（コ・タムドク）の一代記です。まず、この頃の時代背景を説明しましょう。

始祖高朱蒙（コ・チュモン）が高句麗を建国してから約400年後の西暦385年。朝鮮半島南部では百済・新羅・伽耶の勢力が相争い、海から倭国（のちの日本）も加わって混乱状態にありました。また中国北部でも、高句麗を滅亡寸前まで追い込んだ前燕が滅亡し、北魏や後燕などが争う分裂状態にありました。

広開土王は、このような中で即位し、周辺国の混乱に乗じて勢力を伸ばしていくのです。

「太王四神記」の世界

このドラマでは、伝説上の古代朝鮮(チュシン)や、天帝桓雄(フアン) 虎・熊の話など、朝鮮民族の開国神話が重要なキーワードになっています。この神話は短く、内容は『図説韓国の歴史』(221/ス)の12~16ページで見ることができます。



また、高句麗は、中国から伝わった四神(朱雀・玄武・白虎・青龍)を四方の守護神として重視し、墓室などに描いていました。

高句麗壁画古墳に描かれた朱雀(左)と玄武(右)の壁画。

現在の北朝鮮平壤市付近にあり、世界遺産(2004年指定)になっています。

「太王四神記」の世界

このドラマの主人公**談徳**（**タムドク**：374～412、在位 391～412）については、『**三国史記**』と1880年に中国で発見された「**広開土王碑文**」の2点に記述があります。



「広開土王碑文」の拓本。碑文は巨大で、高さ6.3m、幅1.5mもあります。高句麗の始祖**鄒牟王**(すうぼうおう = 朱蒙)などの文字も見えます。

談徳は即位した後、次々各地へ遠征し、広大な領土を獲得しました。「広開土王」とは、その業績をたたえ、死後に贈られた名前です。

なお、碑文には、400年と404年に、朝鮮半島へ進出していた**倭**(日本)を、王自ら討ったことが記されています。

「太王四神記」の世界

～ 高句麗の部族制 ～

このドラマでは、王位をめぐる争いを中心に、**桂婁（ケル）部**のヨン家と**絶奴（ Cholro ）部**の族長がそれぞれ活躍しています。この部族についてご紹介しましょう。



広開土王が遼河を渡って後燕へ攻め込む場面。
矢印の人物が広開土王。

高句麗は部族連合国家で、^{ケル}桂婁部・^{Cholro}絶奴部・^{ソノ}消奴部・^{スンノ}順奴部・^{クァンノ}灌奴部の五部族で構成されていました。このうち、桂婁部は王を出す家系、絶奴部は王妃を出す家系でした。ドラマでも、この特権が重要なキーポイントになっています。

高句麗の豆知識

近年、韓国の長編時代劇では、李氏朝鮮時代を除くと、「朱蒙」「太

王四神記」^{だいそえい}「大祚榮」といったように、高句麗の君主を主人公としたドラマが集中しています。

これは2002年、中国が高句麗を「中華民族のひとつ」とする見解に対し、韓国側が反発していることが一因しています。

ドラマでは、このような現在の政治的背景もあって「朝鮮民族の自立」を鮮明に描いています。



「読売新聞」2004年1月14日(水)より

高句麗の豆知識

古代日本において、高句麗から渡来した人々は相当数にのぼりました。遷都直後の平安京（現在の京都市）でも、高句麗の子孫が多く住んでいたことが知られています。

平安京に住んでいた高句麗の人々（815年当時）

こま高麗氏、とよはら豊原氏、ふくたき福当氏、みかさ御笠氏、いずみ出水氏、にいき新城氏、へき高氏、へき日置氏、
ながせ王氏、ながせ長背氏、なにわ難波氏、しまき島岐氏、しまき島氏、こま狛氏、高田氏、など

このうち、**高麗氏**と**難波氏**は、「太王四神記」の主人公、広開土王

タムドク談徳の直系の子孫といわれています。

高句麗の豆知識

古代日本は、高句麗から文化的にも大きな影響を受けていました。中でも、高句麗から伝えられた**紙・筆・白**は、歴史書である『日本書紀』に特筆されています。



高麗王若光を祀る高麗神社。2016年には移住1300周年の記念行事を行う予定です。

なお、668年に高句麗が滅亡した後、王族の若光（じゃっこう）は日本へ亡命し、716年、**武蔵国の高麗郡**（埼玉県日高市）に定住しました。

ここには、現在でも若光の60代目子孫が宮司と務める**高麗神社**があります。